



令和七年度版

秋田大学

大学院理工学研究科
総合環境理工学部

概要

General Information Bulletin

2025

AKITA UNIVERSITY

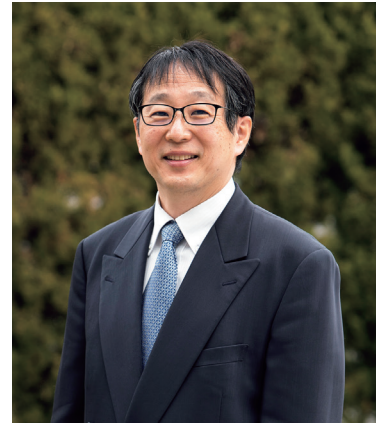
Graduate School of Engineering Science
Faculty of Integrated Science and
Engineering for Environments

はじめに

私たちの社会は第4次産業革命の時代を迎え、AIやデータサイエンスを活用して新たな価値を生み出す人材の育成が求められています。加えて、SDGs達成やカーボンニュートラルの実現に貢献できる人材育成も重要な目標です。理工学研究科では、基礎を重視しつつ複数分野の知識を融合し、イノベーションを生み出す能力を育む教育を行っています。学生一人ひとりの個性に合わせた指導で、専門性と幅広い視野を兼ね備えた人材を地域と社会に送り出します。

秋田鉱山専門学校を基に、物質科学、機械工学、電気電子工学、土木工学など幅広い理工学分野の教育を行い、生命科学、情報工学、数理科学を含めて多様な専門分野を配置しています。また、医学系研究科と連携した先進ヘルスケア工学院では、医工連携による教育研究を推進し、超高齢社会に対応できる人材を育てています。さらに、秋田県立大学との共同大学院ではサステナブル工学専攻を設置し、エレクトロモビリティや社会環境システムの分野で持続可能社会の実現に貢献しています。

データサイエンス・AI教育にも力を入れ、全学生がリテラシーレベルの学習を行い、各専門分野でデジタル技術を活用できる力を養っています。国際性も重視し、留学生の受け入れや派遣、オンラインシンポジウムを通じて学生の視野を広げます。地域に根ざした産業創生にも貢献し、電動化システム共同研究センターと連携し、航空機用電動化システムの開発を進め、地域企業の活性化と新産業の創出を目指しています。



秋田大学大学院理工学研究科長・
総合環境理工学部長

寺境 光俊

CONTENTS

◆ はじめに 秋田大学大学院理工学研究科長・総合環境理工学部長 寺境 光俊	01
◆ 組織・機構図	02
◆ 大学院理工学研究科の目的	03
◆ 総合環境理工学部の理念・目的	04
◆ 沿革	05
◆ 職員	07
◆ 附属施設	08
◆ 通信教育講座	08
◆ 学生定員及び現員	09
◆ 入学状況	11
◆ 就職状況	12
◆ 卒業者数及び修了者数	13
◆ 国際交流	15
◆ 連携・協力協定	16
◆ 科学研究費	16
◆ 外部資金	16
◆ 施設配置図	17
◆ 案内図	18
◆ シンボルマーク	18

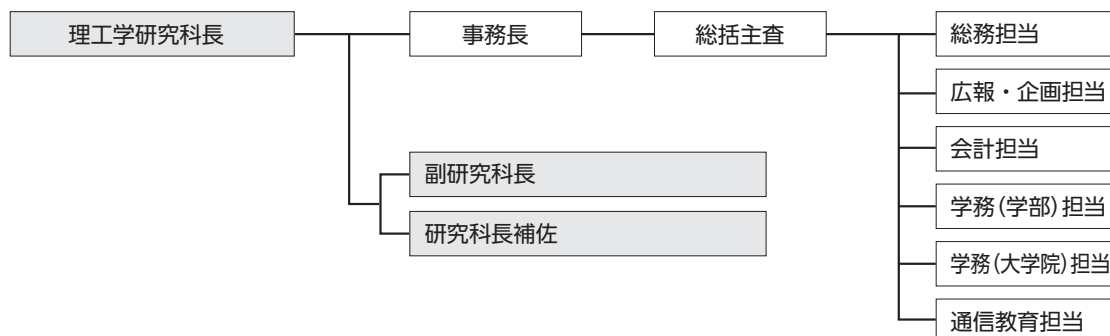
※データはすべて令和7年5月1日現在のものです。

組織・機構図

組織図



事務機構図



大学院理工学研究科の目的

本研究科は、高度な専門知識・技術を原理的なところから体系的に修得し、柔軟性・国際的視野・確かな倫理観を持って、地方創生さらには我が国の持続的発展に寄与貢献できる人材の育成を目的とします。

■ ディプロマ・ポリシー

〈博士前期課程〉

理工学研究科博士前期課程では、研究倫理教育（標準プログラム）を修了し、次のような知識、技術、態度などを身につけた学生に、「修士（理学）」、「修士（理工学）」、および「修士（工学）」の学位を授与します。

1. 生命科学・数理科学分野の高度な専門知識と研究手法を修得し、それらを駆使して問題解決を遂行できると認定された場合に、修士（理学）の学位が授与されます。
2. 理学・工学を基盤とした高度な専門知識と研究手法を学び、理工学分野を横断した俯瞰力・総合力を身につけ、物質に関する高度な要求や問題を解決できると認定された場合に、修士（理工学）の学位が授与されます。
3. 複雑で多岐にわたる工学関連分野の高度な専門知識と研究手法を学び、社会・企業が求めるイノベーション創出のための柔軟な創造力を身につけ、工学における様々な問題を解決できると認定された場合に、修士（工学）の学位が授与されます。

以下は3種類（理学、理工学、工学）の修士号を授与する学生に共通して身につけてもらう能力です。

4. 合理的思考力・認知力（批判的思考力、分析的推論力、資料活用能力、文章力、コミュニケーション力）をさらに強化した理工系基礎力
5. 高度な専門知識や技術の修得・活用・展開力、課題発見・解決能力、新価値創出能力
6. チームワークや異分野連携のための協働能力
7. 専門外の問題に直面した際の柔軟な対応能力
8. グローバル化に対応できる英語表現力
9. 高い起業家精神をもつ地域創生力、技術革新力
10. 倫理規範を守り、業務・研究を遂行できる能力

〈博士後期課程〉

理工学研究科博士後期課程では、博士前期課程で要求される能力のほか、次のような能力などを身につけた学生に、「博士（理学）」、「博士（理工学）」、および「博士（工学）」の学位を授与しています。

1. 斬新性・独創性に優れた課題設定、およびその解決方法を提案できる能力
2. 各専門分野を横断した総合的な視野を持って学際的・新領域の課題に取り組める能力
3. 国際的なプレゼンテーション能力
4. 最新の知識・技術を幅広く理解し、国際競争力のある技術が如何なるものかを把握できる能力
5. 優れたリーダーシップ、協働能力、豊かな創造力に裏づけされた指導力

■ カリキュラム・ポリシー

●教育課程の方針

〈博士前期課程・博士後期課程共通〉

理工学研究科では、理工系分野の高度な専門知識・技術を原理的なところから体系的に修得し、これを実社会で活用・展開し、さらに専門領域にかかわらない柔軟性・国際的視野・確かな倫理観を持って、地方創生さらには我が国の持続的発展に寄与貢献できる高度技術者・研究者・教育者の養成を目指します。教育プログラムとしては、博士前期課程と博士後期課程のプログラムを用意しています。

●教育課程編成の方針

各課程においては、ディプロマ・ポリシーを実現するため、以下に示す方針に基づいて教育課程を編成しています。

〈博士前期課程〉

1. 学部との連続性を重視した教育
6年間一貫教育の方針に基づいた専門教育科目を通して、高度な専門性を身につけ、技術者・科学者として自立した仕事ができる力を養成します。
2. 分野を横断した専門教育
理工学デザイン、理工学特論、地域資源と活性化などを通じて、学際的・融合的分野の諸課題にも柔軟に対応できる俯瞰力・総合力を養成します。
3. 地域に貢献する人材教育と起業家精神の涵養

地域産業アントレプレナー論、ベンチャー起業論、リスクマネジメント、情報技術とイノベーション、経営戦略論などを通じて、地域の産業・経済、教育・文化など地域創生のためのイノベーションを担う人材を養成します。

4. グローバル化に対応した実践教育

理工学英語、Talking about Science in English, Current Topics in Science and Engineering, Presentation Method, 知的財産論、科学技術者倫理特論などを通じて、グローバル化が進む国際社会に対応できる語学力、コミュニケーションスキル、多角的視野、倫理性を身につけ、国際的に活躍できる人材を養成します。

〈博士後期課程〉

高度な専門性と国際性を養う実践教育

総合理工学論文研究、総合理工学特別演習、キャリアデザイン特論、英語スキルアップセミナーを始め、各領域の専門科目を通じて、博士前期課程において養成する人材像の特徴をさらに深化させ、また、人工知能と分野融合のデータサイエンスを通じて各専門分野を横断した総合的な視野を涵養して超スマート社会（Society 5.0）にも対応し、さらには、豊かな創造性や斬新性を備えて、指導的・中核的な立場で国際的に活躍できる高度技術者・教育者、および自立した研究者を養成します。

●教育課程実施の方針

理工学研究科では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる合理的思考力・認知力、高度な専門知識や技術、協働能力、地域創生力などを修得できるように、以下の点を踏まえて教育課程を実施します。

- (1) 講義、演習、実習などを体系的に組み合わせ、高度な専門知識・技術を効率的に修得させることを目指します。
- (2) アクティブラーニングやグループワークを通じて、学生が主体的に問題発見・解決し協働しながら新しいものを創造することができる機会を提供します。
- (3) 演習科目などでは、学生一人ひとりが指導教員からきめ細やかな指導を受け、高度な研究能力を修得できる体制を整えます。
- (4) 博士前期課程では、主専門・副専門教育プログラムなどを通じて、専門分野に関連するもしくは情報工学に関連する分野の高度な知識・技術を修得する機会を提供し、異なる分野の知識・技術を融合できる柔軟性を育む体制を整えます。
- (5) 外国人教員による授業や外国語で行う授業を増やし、グローバル化に対応した実践教育を提供します。
- (6) 地域に貢献する人材教育と起業家精神を涵養するために、実務経験のある教員による授業を行います。
- (7) 社会を構成する人材として活躍するために、倫理観を育む機会を提供します。
- (8) 教育に関する情報の恒常的な把握に努め、カリキュラムを定期的に点検・評価・改善することで、自律的に教育の質を保証します。

■ アドミッション・ポリシー

◆育てる人間像

理工学研究科は、高度な専門知識・技術を原理的なところから体系的に修得し、柔軟性・国際的視野・確かな倫理観を持って、地方創生さらには我が国の持続的発展に寄与貢献できる人材の育成をめざしています。

●求める人物像

理工学の専門性に基礎を置き新しいモノづくり・コトづくりを目指す人、様々な課題を抱える地域社会の発展に貢献したい人、そして、学問を通して人類の諸課題の解決に寄与することを目指している人を入学者として求めています。社会人に対しては働きながらも学ぶ事を可能とする柔軟な取り組みを、そして、世界各国の留学生を受け入れるグローバルな環境をそれぞれ整備し、異なる背景と目標を持つ学生を積極的に受け入れます。

〈博士前期課程〉

博士前期課程においては、高い専門性を活かし、地域社会とグローバル社会における諸課題の解決に意欲をもつ人材を受け入れます。

〈博士後期課程〉

博士後期課程においては、専門性を高度化し自立して研究する能力を養成すると共に、社会と産業界が求めるイノベーション創出のために必要とされる高度な学識、広い視野と柔軟性、科学技術の各分野を横断した俯瞰力・総合力を培い地域社会及び国際社会で指導的に活躍する事を目指す学生を受け入れます。

総合環境理工学部理念・目的

本学部は、これまで培ってきた理工学に関する専門教育を基盤としつつ、グリーン社会実現に関連した教育の強化と、「総合知」の活用の推進のために、分野横断教育を強化し、専門性の枠を越えて共創できる能力を涵養します。さらに、英語教育の強化にも取り組み、変遷する地域・社会のニーズに対応します。これにより、科学技術に関する高い専門性と幅広い知識を身に付け、かつ、他者と共創して柔軟で総合的に課題を解決できる人材、自然環境や環境技術について正しい知識を身に付け、高い倫理観を持ち、科学技術による環境問題の解決に貢献できる人材を養成することを目的とします。

■ ディプロマ・ポリシー

本学部では、所定の年限在籍し、教育課程における卒業要件以上の単位を修得し、次のような知識、技能、態度等を身に付けた学生に、「学士（理学）」「学士（理工学）」または「学士（工学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 科学技術に関する幅広い基礎知識・技能
2. 各学科の分野における専門知識・技能
3. グリーン社会実現に向けた先端科学技術に関する知識
4. 専門分野にデジタル技術を活用できる基礎知識・技能

（汎用的技能）

5. 異分野の技術者・研究者と相互理解し共創できる学際的視野
6. 社会の要求に応えるためのデザイン能力とプロポーザル能力
7. 論理的な記述力、表現力、コミュニケーション能力
8. 英語の活用能力と異文化に対する理解・対話力

（態度・志向性）

9. 主体的かつ継続的に学習する態度
10. 地域の諸課題を自ら発見し、柔軟で総合的な視点で課題に取り組む態度
11. 科学技術が自然と社会に及ぼす影響と効果を理解し、強い責任感と高い倫理観を持って行動する態度

学位ごとに求められる素養を以下に示す。

学士（理学）

理学に関する幅広い基礎知識、問題解決力と創造性、及び科学者・研究者としての社会的義務と責任を認識する能力

学士（理工学）

理学と工学が融合した理工学の幅広い知識と論理的な思考力、及びグローバル社会や地域の諸課題に挑戦する科学技術者・研究者としての能力

学士（工学）

工学系の専門分野における知識と技術、並びに学際分野の知識をもとに、持続可能な社会の実現を目指して、新たな技術創出に挑戦し、社会の諸課題の解決に貢献できる技術者・研究者としての能力

■ カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーを達成するため、次のような方針で教育課程を編成する。

（教育課程編成方針）

1. 数学や理科などの理工系の基礎を確実に理解させる教育を行います。
2. 応用力や創造性を重視した専門教育を行います。
3. 地球規模の環境問題を科学技術の観点から考察できる専門教育を行います。
4. 数理・データサイエンス・AIに関する知識や技術等を身に付け、専門分野に活用できる教育を行います。
5. 分野横断教育を強化し、専門性の異なる他者と共創できる能力

力を育む教育を行います。

6. 専門的な実験、実習、演習科目を通じた、自らの力で課題を発見し、その解決法を提案できる能力を育成します。
7. 個人及びグループで行う実験と実習、報告書作成やプレゼンテーションの実施により、科学技術実践能力を育成します。
8. 日常及び専門分野における英語活用能力を高める教育と学生が留学しやすい制度の整備を行います。
9. アクティブ・ラーニングやPBLを通じて、学生が主体的かつ継続的に学習できる能力を育成します。
10. 地域の自然、社会、環境、産業、文化など教養を深める教育を行います。
11. 社会における科学技術の役割、科学技術者の責任と倫理を理解させる教育を行います。

（学修方法・学修課程）

1年次では、教養知識や伝統文化を学ぶ「主題別科目」、外国語運用能力を養うための「国際言語科目」を履修します。数学、物理学、化学、生物学などの基礎教育科目を特定の専門分野に偏らず広く学び、理工系で必要となる基礎学力を養います。情報通信技術や数理・データサイエンス・AIに関する基礎を学習し、情報活用能力を養成します。

2年次では、グリーン社会の実現に向けた幅広い分野を総合環境理工学教育科目（必修）で学修します。各学科で設置される学科共通科目（必修）を履修することで、専門関連分野に対する幅広い知識を習得します。2年次後期より専門教育コース（必修、選択）を履修し、高い専門性を身に付けます。

3年次では、専門教育コースで専門性の高い科目を履修すると共に、数理・データサイエンス・AI科目（応用基礎レベル）を履修し、専門性にデジタル技術を活用する能力を養成します。3年次後期に卒業課題研究に対する指導教員を決定し、卒業課題研究を行うための準備となる科目を履修します。

4年次では、これまで修得した知識を活用して卒業課題研究を実施し、デザイン・プロポーザル能力を涵養すると共に、学習してきた自らの専門性とグリーン分野の関連についてグループで調査・発表を行う必修科目を新たに設置し、グリーン人材として活躍できる素養を磨きます。同時に科学技術者としての倫理も学びます。さらに、カーボンニュートラルの実現に関連した学科横断履修プログラム（選択）を設置し、地球規模の課題を科学技術の専門的観点から考察して解決策を提案できる人材を養成します。

また、科学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、これに配慮して行動することができる高い倫理観を養う科目を配置するとともに、インターンシップ、PBL科目等により専門分野と社会・産業との関連性について理解し、就業意識を醸成します。

■ アドミッション・ポリシー

◆ 育てる人間像

総合環境理工学部では、理工学に関する高い専門性を身に付け、かつ、他者と共創して柔軟で総合的に課題を解決できる人、また、自然環境や環境技術について正しい知識を身に付け、高い倫理観を持ち、科学技術による環境問題の解決に貢献できる人を育成します。世界や地域で活躍できるこのような人材を輩出するために、次のような能力と意欲をもつ人を入学者として求めます。

● 求める人物像

1. 科学技術を学ぶために必要な基礎学力を身に付けた人
2. グリーン社会の実現に興味があり、積極的に自己学習のできる人
3. 研究者や技術者として世界や地域の発展に貢献する意欲を持つ人



初代校長 / 小花冬吉先生

- 6年 ● 4月 **大学院鉱山学研究科博士課程(区分別)設置**
 博士前期課程
 (資源・素材工学専攻, 物質工学専攻, 情報工学専攻, 機械工学専攻, 電気電子工学専攻, 土木環境工学専攻)
 博士後期課程
 (地球工学専攻, 機能物質工学専攻, システム工学専攻)
- 8年 ● 3月 附属資源地学研究施設廃止
 5月 附属素材資源システム研究施設設置(附属資源地学研究施設から)
- 10年 ● 4月 **工学資源学部設置**(鉱山学部の改組)
 (地球資源学科, 環境物質工学科, 材料工学科, 情報工学科, 機械工学科, 電気電子工学科, 土木環境工学科)
- 14年 ● 4月 **大学院工学資源学研究科設置**(鉱山学研究科の改組)
 博士前期課程
 (地球資源学専攻, 環境物質工学専攻, 材料工学専攻, 情報工学専攻, 機械工学専攻, 電気電子工学専攻, 土木環境工学専攻)
 博士後期課程
 (資源学専攻, 機能物質工学専攻, 生産・建設工学専攻, 電気電子情報システム工学専攻)
- 16年 ● 7月 附属ものづくり創造工学センター設置
- 18年 ● 1月 附属地域防災力研究センター設置
 4月 附属環境資源学研究センター設置(附属素材資源システム研究施設の廃止)
- 19年 ● 4月 博士前期課程
 環境物質工学専攻 環境リスクコミュニケーター養成コース設置
 機械工学専攻 テクノマイスター養成コース設置(平成 23 年度以降募集停止)
 10月 博士後期課程
 英語による特別コース設置
- 20年 ● 4月 環境応用化学学科, 生命化学科設置(環境物質工学科の改組・再編)
 工学資源学研究科
 MOT(Management of Technology) コース設置
- 21年 ● 4月 リサイクルプロセッシング講座(寄附講座)設置(H21.4.1~H30.3.31)
- 22年 ● 4月 **大学院工学資源学研究科を部局化**
- 23年 ● 10月 創立 100 周年記念式典挙行
- 24年 ● 4月 博士前期課程
 環境応用化学専攻, 生命科学専攻設置(環境物質工学専攻の改組・再編)
 共同ライフサイクルデザイン工学専攻設置(秋田県立大学との共同大学院)
 10月 百周年記念館完成
 12月 工学資源学研究科
 資源ニューフロンティア特別教育コース設置(H24.4.1~H30.3.31)
- 25年 ● 4月 博士前期課程
 あきたアーバンマイン開発マイスター養成コース設置
- 26年 ● 4月 **理工学部設置**(工学資源学部の改組)
 (生命科学科, 物質科学科, 数理・電気電子情報学科, システムデザイン工学科)
 博士後期課程
 生命科学専攻設置
 附属理工学研究センター設置(附属環境資源学研究センターの改称)
 附属鉱業博物館移管(国際資源学部附属施設へ)
- 27年 ● 4月 博士前期課程
 医理工連携コース設置
- 28年 ● 4月 **大学院理工学研究科設置**(工学資源学研究科の改組)
 博士前期課程(生命科学専攻, 物質科学専攻, 数理・電気電子情報学専攻, システムデザイン工学専攻, 共同ライフサイクルデザイン工学専攻)
 博士後期課程(総合理工学専攻)
- 30年 ● 4月 附属革新材料研究センター設置(附属理工学研究センターの改組)
- 31年 ● 4月 附属クロスオーバー教育創成センター設置(附属ものづくり創造工学センターの改組)
- 令和
- 2年 ● 4月 博士前期課程
 航空機システム・エネルギーイノベーションコース設置
 博士前期課程
 あきたサスティナビリティスクール設置(あきたアーバンマイン開発マイスター養成コース改編)
- 3年 4月 先進ヘルスケア工学院設置(医学系研究科と共同設置した研究科等連係課程実施基本組織)
- 4年 3月 附属地域防災力研究センター廃止
 4月 博士前期課程
 共同サステナブル工学専攻設置(秋田県立大学との共同大学院)
- 7年 ● 3月 附属革新材料研究センター廃止
 4月 **総合環境理工学部設置**(理工学部の改組)
 (応用化学生物学科, 環境数物科学科, 社会システム工学科)



百周年記念館(平成 24 年当時)

職 員

役 職 員

理工学研究科・理工学部	研究科長(学部長)	寺境 光俊	総合環境理工学部	応用化学生物学科長	加藤 純雄
	副研究科長(副学部長)	熊谷 誠治		生物学コース長	疋田 正喜
	副研究科長(副学部長)	徳重 英信		有機・高分子化学コース長	藤原 憲秀
	研究科長補佐	藤原 憲秀		応用化学コース長	加藤 純雄
	研究科長補佐	吉村 哲		環境数物科学科長	山村 明弘
	生命科学専攻長・学科長	藤原 憲秀		数理科学・地球環境学コース長	山村 明弘
	生命科学コース長	藤原 憲秀		機能デバイス物理コース長	河村 希典
	物質科学専攻長・学科長	吉村 哲		社会システム工学科長	後藤 文彦
	応用化学コース長	加藤 純雄		モビリティコース長	大口 健一
	材料理工学コース長	吉村 哲		電気システムコース長	田島 克文
	数理・電気電子情報学専攻長・学科長	河村 希典		社会基盤コース長	後藤 文彦
	数理科学コース長	山村 明弘		附属クロスオーバー教育創成センター長	奥山 栄樹
	電気電子工学コース長	河村 希典		事務長	工藤奈緒美
	人間情報工学コース長	水戸部一孝			
	システムデザイン工学専攻長・学科長	足立 高弘			
	機械工学コース長	足立 高弘			
	土木環境工学コース長	後藤 文彦			
	共同サステナブル工学専攻長	三島 望			

教 職 員

常勤教職員数 ※兼務教職員は含みません。		教 授	准教授	講 師	助 教	計	職 員	合 計
生命科学専攻	生命科学コース	5	3	1	1	10		10
物質科学専攻	応用化学コース	4	4	3	3	14		14
	材料理工学コース	5	7	2	0	14		14
数理・電気電子情報学専攻	数理科学コース	2	3	3	3	11		11
	電気電子工学コース	4	3	3	4	14		14
システムデザイン工学専攻	機械工学コース	3	5	1	1	10		10
	土木環境工学コース	3	3	0	6	12		12
共同サステナブル工学専攻		3	7	3	0	13		13
附属クロスオーバー教育創成センター		0	0	0	1	1		1
技術部							37	37
事務部							15	15
合 計		29	35	16	19	99	52	151
(事務部内訳)								
事務長							1	1
総括主査							2	2
総務担当							3	3
広報・企画担当							1	1
会計担当							2	2
学務(学部)担当							3	3
学務(大学院)担当							2	2
通信教育担当							1	1

附属施設

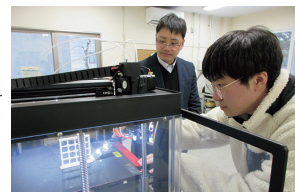
附属クロスオーバー教育創成センター 平成31年4月1日設置

設置目的 理工系実践教育に関するさまざまな新しい取り組みを行い、学生および教員双方の質の向上に貢献する

活動内容 留学相談・学生自主プロジェクト・子どもものづくり教室・PBLアクティブラーニング・留学準備セミナー・ライセンス講習会・留学プログラム

施設設備 ●創造工作室 ●創造組立作業室 ●旋盤 ●フライス盤
●ボール盤 ●コンターマシン ●レーザー加工機
●3Dプリンター ●ワイヤ放電加工機など

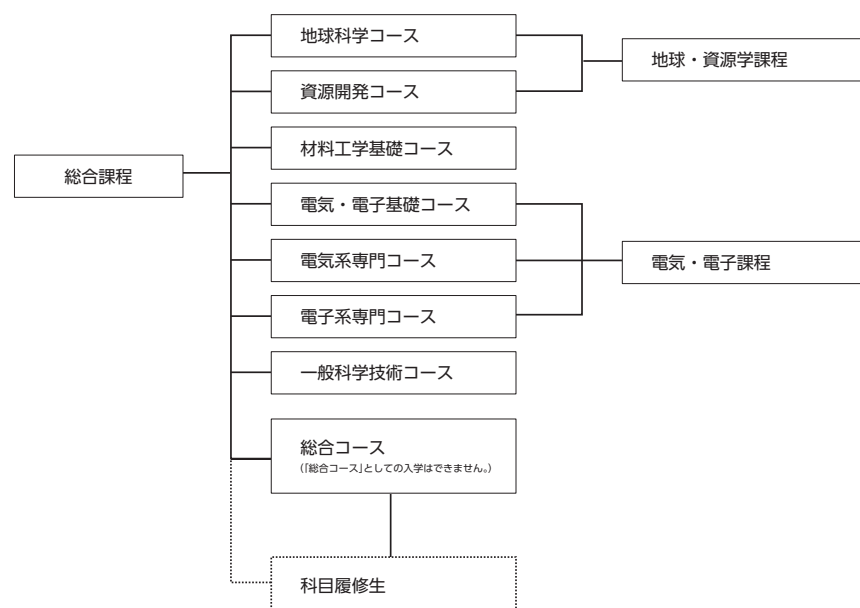
Website <https://www.crossover.riko.akita-u.ac.jp/>



通信教育講座

コース・修業年限

7コース3課程・修業年限1年



学内スクーリング野外巡検の様子

受講者・修了者数

コース	入学者累計	修了者累計	現在受講者数
地域科学コース	776	250	70
資源開発コース	274	95	13
材料工学基礎コース	277	49	20
材料工学専門コース	43	25	0
電気・電子基礎コース	853	144	73
電気系専門コース	94	46	12
電子系専門コース	87	39	6
一般科学技術コース	426	106	52
総合コース	0	22	0
合 計	2,830	776	246

(旧課程)			
採鉱・地質課程	5,568	457	-
冶金・金属材料課程	5,337	501	-
電気・電子課程	7,297	399	-
合 計	18,202	1,357	-

学生定員及び現員

学 部

総合環境理工学部	入学定員	収容定員		1年次				合計
応用化学生物学科	100	100		6				6
				106				106
環境数物科学科	90	90		6				6
				88				88
社会システム工学科	125	125		8				8
				129				129
合 計	315	315		20				20
				323				323

理工学部	入学定員	収容定員		1年次	2年次	3年次	4年次	合計
生命科学科	45	135	生命科学コース	-	2	2	-	4
				3	47	43	45	138
物質科学科	110	330	応用化学コース	-	5	7	3	15
				-	58	73	59	190
			材料理工学コース	-	1	1	1	3
				-	60	59	48	167
数理・電気電子情報学科	120	360		1	-	-	-	1
				8	-	-	-	8
			数理科学コース	-	-	2	1	3
				-	26	26	24	76
			電気電子工学コース	-	3	3	2	8
				-	61	75	58	194
システムデザイン工学科	120	360	人間情報工学コース	-	3	4	3	10
				-	41	38	36	115
				-	-	-	-	0
				6	-	-	-	6
			機械工学コース	-	6	8	4	18
				-	83	91	84	258
	120	360	土木環境工学コース	-	1	3	2	6
				-	44	47	42	133
				1	-	-	-	1
合 計	(12)	(24)		2	21	30	16	69
	395	1,185		25	420	452	396	1,293

※上段は留学生を示し内数である。 ※入学定員・収容定員欄の（ ）は3年次編入学定員・収容定員を表し外数である。

※1年次は学科単位での入学のため下段に表記。

※理工学部は令和7年度から学生募集停止。

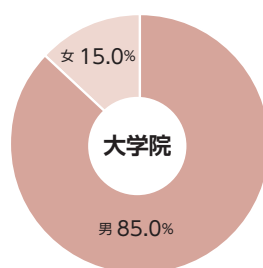
大学院理工学研究科

博士前期課程	入学定員	収容定員		1年次	2年次		合計
生命科学専攻	15	30	生命科学コース	20	23		43
物質科学専攻	40	80	応用化学コース	23	22		45
			材料理工学コース	18	19		37
数理・電気電子情報学専攻	45	90	数理科学コース	5	6		11
			電気電子工学コース	19	21		40
			人間情報工学コース	20	17		37
システムデザイン工学専攻	32	64	機械工学コース	12	18		30
			土木環境工学コース	15	12		27
共同サステナブル工学専攻	18	36	エレクトロモビリティコース	21	17		38
			社会環境システムコース	4	3		7
合 計	150	300		157	158		315

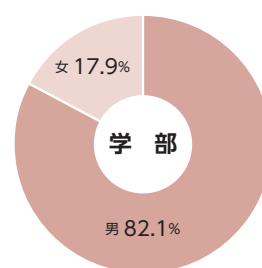
博士後期課程	入学定員	収容定員		1年次	2年次	3年次	合計
総合理工学専攻	10	30	生命科学領域	1	2	2	5
			物質科学領域	1	3	4	8
			数理・電気電子情報学領域	2	3	8	13
			システムデザイン工学領域	4	4	4	12
合 計	10	30		8	12	18	38

※外国人留学生を含む。

在学生男女比



在学生男女比



都道府県別内訳(出身高校・大学所在地別在学状況)

総合計

	学部	大学院
合 計	1,616	353

北海道

	学部	大学院
合 計	40	2

東北

	学部	大学院
青森県	53	1
岩手県	69	0
宮城県	85	6
秋田県	529	327
山形県	50	1
福島県	42	1
合 計	828	336

中部

	学部	大学院
新潟県	82	1
富山県	7	0
石川県	9	0
福井県	2	0
山梨県	9	0
長野県	29	0
岐阜県	12	0
静岡県	79	0
愛知県	45	0
合 計	274	1

関東

	学部	大学院
茨城県	43	0
栃木県	75	0
群馬県	51	0
埼玉県	44	0
千葉県	11	2
東京都	49	2
神奈川県	31	0
合 計	304	4

中国

	学部	大学院
鳥取県	0	0
島根県	1	0
岡山県	3	0
広島県	0	0
山口県	1	0
合 計	5	0

近畿

	学部	大学院
三重県	8	0
滋賀県	0	0
京都府	6	0
大阪府	22	0
兵庫県	14	0
奈良県	3	0
和歌山県	1	0
合 計	54	0

九州・沖縄

	学部	大学院
福岡県	5	0
佐賀県	3	0
長崎県	1	0
熊本県	1	0
大分県	0	0
宮崎県	1	0
鹿児島県	2	0
沖縄県	2	0
合 計	15	0

四国

	学部	大学院
徳島県	6	0
香川県	0	0
愛媛県	2	0
高知県	0	0
合 計	8	0

外国

	学部	大学院
留学生	88	10
合 計	88	10

入学状況（令和7年度入学者）

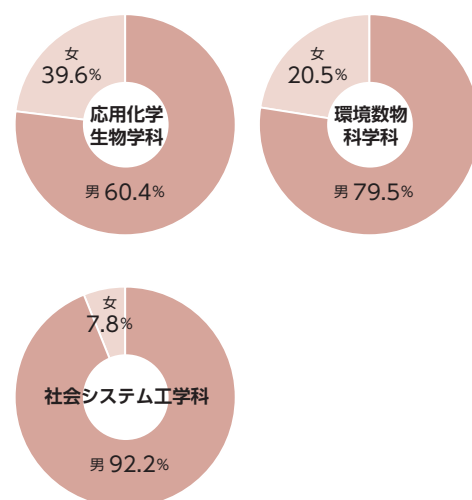
学 部

学 科	コ ー ス	総合型選抜Ⅰ						学校推薦型選抜Ⅰ（女子枠）			私費外国人（渡日前含む）		
		募集人員		志願者数		入学者数		募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数
		出願資格A	出願資格B	出願資格A	出願資格B	出願資格A	出願資格B						
応用化学生物学科	生物学コース												
	有機・高分子化学コース	13	4	19	4	15	4	3	2	2	8	23	6
	応用化学コース												
環境数物科学科	数理科学・地球環境学コース	4	-	9	-	7	-	3	3	3	5	6	2
	機能デバイス物理コース	3	2	1	1	1	1	3	0	0	4	5	4
社会システム工学科	モビリティコース	5	5	3	8	3	8	2	1	1	6	9	6
	電気システムコース	2	3	7	6	3	4	2	0	0	2	4	1
	社会基盤コース	3	3	5	5	5	3	2	0	0	2	6	1
合 計		30	17	44	24	34	20	15	6	6	27	53	20

学 科		一般入試					
		前期			後期		
		募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数
応用化学生物学科	a方式	33	39	30	12	112	15
	b方式	27	61	34			
環境数物科学科	a方式	28	34	27	16	81	15
	b方式	22	38	28			
社会システム工学科	a方式	34	38	33	20	95	19
	b方式	34	52	42			
合 計		178	262	194	48	288	49

※1は、私費外国人留学生で内数。※2は、外国人政府派遣留学生で外数。

入学生男女比

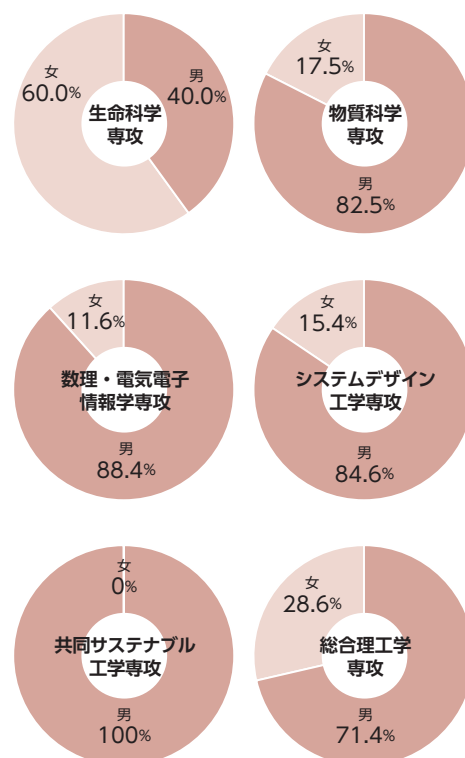


大学院理工学研究科

博士前期課程							
専 攻	募集人員	志願者数		入学者数		※1	※3
		※1	※3	※1	※3		
生命科学専攻	15	2		25	1		20
物質科学専攻	40	0		50	0		40
数理・電気電子情報学専攻	45	10		51	5		43
システムデザイン工学専攻	25	0		30	0		26
共同サステナブル工学専攻	18	6		31	3		25
合 計	143	18	0	187	9	0	154
博士後期課程							
専 攻	募集人員	志願者数		入学者数			
総合理工学専攻	10	4		8	3		7

※1は、私費外国人留学生で内数。※3は、社会人特別選抜で外数。

入学生男女比



就職状況（令和6年度卒業・修了者）

【業種別就職状況】

(人)

区 分		学部	大学院
就職先業種別区分	農林水産	0	0
	鉱 業	1	0
	建 設 業	21	5
	製 造 業	55	103
	製造業 内 訳	(食料・飲料・たばこ)	3
		(繊維工業)	1
		(印刷・同関連業)	1
		(化学・石油・石炭)	3
		(鉄鋼業・非鉄金属)	6
		(はん用・業務用機械)	5
		(電子部品・デバイス)	20
		(電気・情報通信機器)	5
		(輸送用機械器具)	4
		(その他製造業)	7
	電気・ガス・水道業	9	9
	情報通信業	29	14
	運輸業、郵便業	1	1
	卸・小売業	4	1
	金融・保険業	0	1
	不動産業	2	0
	学術研究、専門・技術サービス業	13	12
	飲食・宿泊業	0	0
	生活関連サービス業、娯楽業	1	1
	医療・福祉	3	0
	学校教育	14	6
	その他教育学習支援業	4	0
	複合サービス・サービス業他	2	1
	公務員（国家・地方）	40	3
	その他	1	0
	就職者計	200	157
進学者計		173	5
そ の 他		18	8
合 計		391	170

※その他は、卒業と同時に就職や進学を希望しない者（卒業優先など）。
※社会人ドクターは、進路を就職として計上。

【学部】

(人)

コース名	卒業者数	就職者数	進学者数	その他*
生命科学コース	43	19	23	1
応用化学コース	43	17	25	1
材料理工学コース	49	27	20	2
数理科学コース	26	21	5	0
電気電子工学コース	60	28	27	5
人間情報工学コース	40	15	23	2
機械工学コース	83	43	34	6
創造生産工学コース	1	0	0	1
土木環境工学コース	46	30	16	0
学部 合計	391	200	173	18

【大学院】

(人)

コース名	修了者数	就職者数	進学者数	その他*
生命科学コース	19	16	1	2
応用化学コース	19	19	0	0
材料理工学コース	21	20	0	1
数理科学コース	4	4	0	0
電気電子工学コース	17	15	0	2
人間情報工学コース	20	19	0	1
機械工学コース	25	24	1	0
土木環境工学コース	8	8	0	0
共同サステナブル工学専攻	24	20	3	1
小 計	157	145	5	7
博士前期課程 総合理工学	13	12	0	1
博士後期課程				
大学院 合計	170	157	5	8

※学部に未内定3名、大学院に未内定1名含む

卒業生数及び修了者数

学 部

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	累 計
理工学部（学科）						
生命科学科	45	41	46	43	43	340
物質科学科	97	137	100	109	92	829
数理・電気電子情報学科	113	145	127	126	126	1,005
システムデザイン工学科	126	134	126	114	130	997
小 計	381	457	399	392	391	3,171
工学資源学部（学科）						
地球資源学科	0	-	-	-	-	860
環境物質工学科	0	-	-	-	-	756
環境応用化学科	0	-	-	-	-	337
生命化学科	0	-	-	-	-	187
材料工学科	0	-	-	-	-	900
情報工学科	1	-	-	-	-	792
機械工学科	0	-	-	-	-	1,379
電気電子工学科	0	-	-	-	-	1,339
土木環境工学科	0	-	-	-	-	915
小 計	1					7,465
鉱山学部（学科）						
資源・素材工学科						744
物質工学科						878
情報工学科						327
機械工学科						653
電気電子工学科						656
土木環境工学科						329
鉱山学部（旧学科）						10,935
小 計						14,522
合 計						25,158

大学院理工学研究科

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	累 計
博士前期課程						
生命科学専攻	17	30	25	22	19	146
物質科学専攻	38	36	35	49	40	288
数理・電気電子情報学専攻	59	50	48	63	41	400
システムデザイン工学専攻	31	36	30	36	33	266
共同ライフサイクルデザイン工学専攻	16	12	6	3	-	68
共同サステナブル工学専攻	-	-	-	29	24	53
合 計	161	164	144	202	157	1,221
博士後期課程						
総合理工学専攻	4	8	4	5	13	45
合 計	4	8	4	5	13	45

■ 大学院工学資源学研究科

	累 計
博士前期課程	
地球資源学専攻	232
環境物質工学専攻	259
環境応用化学専攻	73
生命科学専攻	47
材料工学専攻	263
情報工学専攻	192
機械工学専攻	383
電気電子工学専攻	392
土木環境工学専攻	143
共同ライフサイクルデザイン工学専攻	38
合 計	2,022
博士後期課程	
資源学専攻	43
生命科学専攻	3
機能物質工学専攻	35
生産・建設工学専攻	33
電気電子情報システム工学専攻	37
合 計	151

■ 大学院鉱山学研究科

	累 計
博士前期課程	
資源・素材工学専攻	250
物質工学専攻	236
情報工学専攻	65
機械工学専攻	201
電気電子工学専攻	190
土木環境工学専攻	70
(修士課程)	1,270
合 計	2,282
博士後期課程	
地球工学専攻	40
機能物質工学専攻	42
システム工学専攻	40
合 計	122

海外学術交流協定

大学間協定 ※理工学研究科教員が窓口となっているもの		
大学名	国 名	締結年月日
中南大学	中 国	平成 16年 8月 24日
大連民族大学	中 国	平成 17年 6月 27日
国立江原大学校	韓 国	平成 20年 3月 24日
ハノイ工科大学	ベトナム	平成 20年 12月 3日
ハノイ交通・通信大学	ベトナム	平成 20年 12月 3日
ラップランド応用科学大学	フィンランド	平成 21年 10月 23日
東華大学	中 国	平成 21年 12月 3日
長安大学	中 国	平成 22年 11月 18日
フライベルク工科大学	ドイツ	平成 24年 7月 4日
マラヤ大学	マレーシア	平成 25年 11月 20日
インド工科大学マドラス校	インド	平成 26年 3月 21日
嘉興学院	中 国	平成 26年 11月 12日
ペロール工科大学 (VIT大学)	インド	平成 27年 6月 12日
テテ工科大学	モザンビーク	平成 29年 3月 23日
国立台湾大学	台 湾	平成 31年 3月 7日
国立彰化師範大学	台 湾	令和 2年 1月 22日
フィリピン大学ロスバニョス校	フィリピン	令和 2年 10月 9日
グアム大学	アメリカ	令和 3年 7月 14日
国立成功大学	台湾	令和 5年 2月 20日
長榮大学	台湾	令和 5年 3月 3日
モンゴル工業技術大学付属高専	モンゴル	令和 5年 12月 1日
国立モンゴル科学技術大学付属高専	モンゴル	令和 5年 12月 1日
新モンゴル高専	モンゴル	令和 5年 12月 1日
部局間協定		
大学名	国 名	締結年月日
モンタナ鉱物理工科大学	アメリカ	昭和 57年 6月 24日
スファックス大学 工学部	チュニジア共和国	平成 15年 12月 18日
清華大学精密機器と機械学系	中 国	平成 19年 3月 1日
清華大学化学系	中 国	平成 20年 1月 17日
明新科技大学工学院	台 湾	平成 22年 4月 12日
同済大学材料科学与工程学院	中 国	平成 22年 5月 24日
同済大学上海市金属効能材料開発応用重点実験室	中 国	平成 22年 5月 24日
オークランド工科大学 デザイン創造学部	ニュージーランド	平成 24年 11月 27日
インド科学技術研究評議会附属・国立化学技術研究所	インド	平成 28年 8月 5日
デブレツェン大学 情報学部	ハンガリー	令和 元年 5月 30日
コメニウス大学 数学・物理・情報学部	スロバキア	令和 元年 8月 13日
マレーシア工科大学 マレーシア日本国際工科院	マレーシア	令和 3年 3月 9日
アストン大学 工学物理学部	英 国	令和 4年 5月 11日
泰日工業大学	タ イ	令和 4年 11月 30日
マレーシア国民大学 太陽エネルギー研究所	マレーシア	令和 5年 8月 10日
オタゴ大学 科学部化学科	ニュージーランド	令和 5年 8月 18日
ブルノ工科大学	チェコ	令和 6年 2月 5日
AGHクラクフ大学	ポーランド	令和 6年 6月 13日

留学生受け入れ状況

国 名	総合環境理工学部	理工学部	学部研究生	学部特別聴講学生	科目等履修生	理工学研究科	大学院研究生	大学院特別研究学生	合 計
中国	13	28		1		13			55
マレーシア	1	15							16
ベトナム		15				1			16
韓国	4	7		1					12
フィリピン						3			3
タイ								1	1
モンゴル	1	4				1			6
インド						1		2	3
モロッコ						1			1
ベナン						1			1
ナイジェリア						1			1
マラウィ						1			1
コートジボワール						1			1
ミャンマー	1								1
合 計	20	69	0	2	0	24	0	3	118

連携・協力協定

機関名	協定の形態等	締結年月日
秋田工業高等専門学校(秋田市)		平成 17年 12月 13日
秋田県産業技術センター (秋田市)		平成 18年 11月 21日
秋田県, 能代市		令和 2年 3月 12日
長崎大学海洋未来イノベーション機構, 長崎大学総合生産科学域		令和 4年 8月 29日
長崎大学大学院総合生産科学研究科、秋田県立大学大学院システム科学技術研究科、北九州市立大学大学院国際環境工学研究科及び新潟大学大学院自然科学研究科	洋上風力発電人材育成に関する連携・協力協定(5者間)	令和 7年 1月 22日

科学研究費

(最近6年間) (単位: 千円)

研究種目	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
基盤研究(A)	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	1	12,600
基盤研究(B)	8	37,440	12	58,980	12	48,548	11	56,810	9	28,400	7	20,600
基盤研究(C)	53	67,470	51	56,730	50	58,659	41	58,240	48	59,000	46	44,100
挑戦的研究(萌芽)	0	-	2	3,120	2	28,065	0	-	0	-	1	2,500
若手研究	9	11,440	9	12,720	10	11,666	7	12,740	8	8,500	9	12,200
研究活動スタート支援	0	-	0	-	0	-	1	1,430	2	1,000	2	1,000
奨励研究	3	1,440	1	430	2	900	2	870	4	1,750	2	810
研究成果公開促進費	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-	1	500
特別研究員奨励費	0	-	2	1,900	0	-	2	1,700	3	2,400	0	-
合 計	73	117,790	77	133,880	76	147,838	64	131,790	74	101,050	69	94,310

外部資金

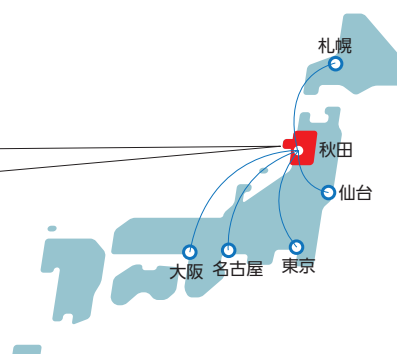
(最近6年間) (単位: 千円)

年 度	《共同研究》		《受託研究》		《奨学寄附金》	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
令和元年度	58	66,125	22	84,602	71	61,345
令和2年度	43	55,427	14	57,843	53	42,642
令和3年度	49	96,942	19	54,095	40	36,335
令和4年度	38	127,521	16	62,565	50	44,677
令和5年度	29	58,204	15	46,565	60	61,366
令和6年度	40	40,862	17	80,949	68	58,656

施設配置図



案内図



秋田まで

- 飛行機
 - 札幌から 約1時間
 - 東京から 約1時間
 - 名古屋から 約1時間30分
 - 大阪から 約1時間30分
- 新幹線
 - 東京から 約4時間
- 高速道路
 - 仙台から 約3時間

JR秋田駅から秋田大学手形キャンパスまで

- 徒歩：秋田駅東口から約15分（約1.3km）
- バス：秋田駅西口バスのりば12番線から（秋田中央交通）
手形山大学病院線 —「秋田大学前」下車—

理工学研究科 理 工 学 部 シンボルマーク



Engineeringの「E」とScienceの「S」を図案化し、理工学部を表しました。「E」には工学の象徴としてハンマーを、「S」には理学の象徴としてサイン波を描き入れました。鉱山学部・工学資源学部の伝統を背景の形状で表現し、モダンな印象を与えるよう工夫しました。

制作：工学資源学研究科 材料工学専攻
(現 理工学研究科 共同サステナブル工学専攻)
佐藤 芳幸 准教授

総合環境理工学部シンボルマーク

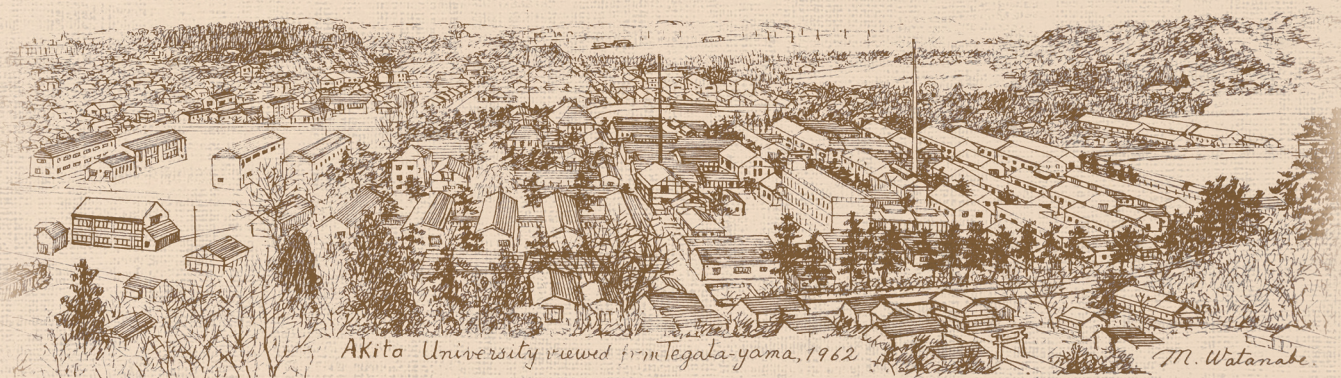


本シンボルマークは、秋田大学の前身である「秋田鉱山専門学校」の校章に採用された「ダイヤモンドの正八面体」を中心に据えています。

「ダイヤモンドの八面体」を包むように配置した若葉のシルエットは、GX（グリーントランスフォーメーション）の実践、環境との共生と、未来への希望を意味します。秋田大学の所在地、秋田市の木として制定される「けやき」の枝葉をモチーフした若葉は、地域に寄り添い、ともに成長し、秋田全体に貢献する姿勢を表しています。

先人の積み上げてきた長い歴史を重んじ、持続可能社会の実現に貢献できる教育の場を象徴しています。

制作：あかでみあーと



秋田大学



大学院理工学研究科
総合環境理工学部

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号

TEL.018-889-2305

FAX.018-889-2300

ホームページ <https://www.riko.akita-u.ac.jp> (理工学研究科・理工学部)

<https://www.sogo.riko.akita-u.ac.jp> (総合環境理工学部)



理工学研究科・
理工学部



総合環境理工学部